

科目名		授業形態	担当教員名	
言語発達障害演習 I		講義・演習	西田 和子・石井 喜代香	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
A、Bの2グループに分かれ、同時並行で少人数性で演習を行う。前半と後半でグループを入れ替える。インテーク、行動観察の見方、検査の見方とまとめ方、及び訓練記録のまとめ方を学ぶ。				
授業の到達目標				
A：グループ討議やレポート課題を通して、インテークから情報収集すること、及び行動観察と検査による評価の仕方を学ぶ。また、それぞれの内容について、情報のポイントが記載できるようになる。 B：インテークの演習を通し、話の聞き取りやまた聞き取った情報の整理の仕方を知る。行動観察や検査の見る視点を身につけ、得た情報もとに学生間で討議を行い、まとめることができるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	A グ ル ー プ	オリエンテーション、インテークの仕方	B グ ル ー プ	オリエンテーション、インテークの演習
2		インテークの実際		情報の整理とまとめ
3		インテークの整理（FD） 行動観察の仕方		検査の読み取りとまとめ
4		行動観察の実際		検査所見の書き方
5		行動観察のまとめ方（FD） 検査の見方		子どもの行動観察演習
6		検査による評価の実際		子どもの行動観察演習
7		検査所見のまとめ方（FD）		行動観察及び全体のフィードバック
8	B グ ル ー プ	オリエンテーション、インテークの演習	A グ ル ー プ	オリエンテーション、インテークの仕方
9		情報の整理とまとめ		インテークの実際
10		検査の読み取り・まとめ		インテークの整理（FD） 行動観察の仕方
11		検査所見の書き方		行動観察の実際
12		子どもの行動観察演習		行動観察のまとめ方（FD） 検査の見方
13		子どもの行動観察演習		検査による評価の実際
14		行動観察及び全体のフィードバック		検査所見のまとめ方（FD）
15	演習（子どもとのかかわり）			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート	60%	レポート課題	石井（30点）	西田（30点）
小テスト				
平常点	20%	講義（討議・提出物等）	石井（10点）	西田（10点）
その他	20%	観察実習（態度・レポート）	石井（10点）	西田（10点）
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
ことばの障害入門 入門コース・ことばの発達と障害2	西村辨作 編	大修館書店		
ことばの障害の評価と指導 入門コース・ことばの発達と障害3	大石敬子 編	大修館書店		
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版	玉井ふみ 編	医学書院		
言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版	石田宏代 他著	医歯薬出版		
言語聴覚士のための臨床実習テキスト-小児編	深浦順一 他著	建帛社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
発達がわかれば子どもが見える	田中真介 監修	ぎょうせい		
自由記載				
備考				
AグループとBグループに分かれ、少人数で平行して講義を進める。各グループとも中間でグループを入れ替える。また、各自1回、小児のケースの指導場面の見学とフィードバックを行う。Bグループは、各講義に事前課題を出す。				